

学力向上チャレンジ校だより

平成 28 年 8 月 22 日
(八次中学校区研究推進地域 第 5 号)

第 4 回研究授業及び研究協議会の内容や指導助言と、1 学期の取組を以下にまとめておりますので、2 学期以降の研究推進につなげていきましょう。

【第 4 回研究授業（国語）】 日時：平成 28 年 6 月 24 日（金）

単元名：新しい視点へ一分かりやすく説明しようー

指導者：八次中学校 豊永政男 教諭

★授業で提案した指導改善のポイント

★学習課題…「具体と抽象」の思考パターンに焦点化し、書き手の意図を考えさせる。

★協同学習…段落パズルという考えの相違を視覚的に認識し、考えの根拠を交流する。



【研究協議会】

○操作をしながら考えることと、課題が 3 つに精選されていたことで、自分の考えが持ちやすかった。

○生徒の言葉を活用して、指導者が意図するまとめにつながる事ができた。

●段落の順序の判断が難しかった。

→（改善点）前後の段落を読んだり、小学校教材を読み直したりするなどの工夫をする。

指導助言

<広島県北部教育事務所 渡辺剛 指導主事>

- ・研究テーマを授業に落とし込む視点がよかった。
- ・色のついたカードが、課題のある生徒にとっても机間指導をする指導者にとっても有効であった。
- ・導入で、単元を貫く言語活動であるスピーチについて触れることが必要である。
- ・漠然とした意見では学びが深まらないので、目指すゴールをより意識して切り返し発問をする。

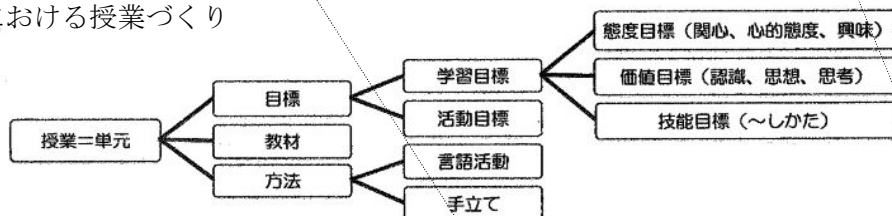
【講話】 <福山市立大学教育学部児童教育学科 森美智代 准教授>

「生徒が主体的に取り組む習得の学習活動の手法」

○次期指導要領に向けた動向について

- ・学力の 3 要素…「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」
- ・小中学校で成果を上げてきた「言語活動」の充実がアクティブ・ラーニングにつながる。

○国語科における授業づくり



・読むことの授業では、第 1 次で「態度目標」、第 2 次で「技能目標」、第 3 次で「価値目標」の実現をするという単元構成が考えられる。

・教材中心ではなく、学習者中心の単元学習を構想する。

・言語活動…別のメディア（表現形式）に作りかえること。

○つきたい力の明確化…論理と論証の違いなど


★どの教科にもつながる点★

- ①自分の考えを持たせるための課題設定
- ②重点項目取組表を意識した授業改善
(裏面参照)
- ③求められる資質・能力を意識した授業

夏休みも残すところあとわずかとなりました。2学期の授業に向けて、改めて研究構想図や重点項目取組表（別紙）と、先生方の実践をつなげてほしいと思います。1学期に行われた4回の研究授業を簡単に以下にまとめていますので、参考にいただければと思います。


研究テーマ
児童生徒が主体的に取り組む習得の学習活動の工夫

「ペアで解き方を考えよう」
 中学校数学<山岡教諭>



- ★予習を習慣化し、授業につなぐ。
- ★答えではなく、解き方に着目させる。

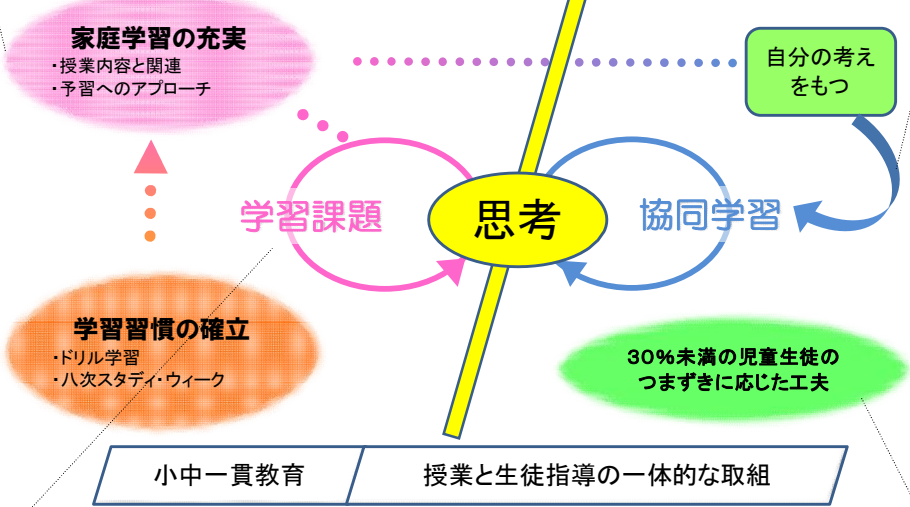
「どちらの段落がふさわしい？」
 小学校国語<雲井指導教諭>



- ★自分の考えを持ちやすい。
- ★協同学習で考えが深まる。

学力向上チャレンジ校事業
 八次中学校区研究推進地域 研究構想図


主体的な学びの創造



家庭学習の充実
 ・授業内容と関連
 ・予習へのアプローチ


学習習慣の確立
 ・ドリル学習
 ・八次スタディ・ウィーク

「何種類の形ができるだろうか？」
 小学校算数<末丸教諭>



- ★主体的（特に能動的に）考えられる。
- ★合同の意味が納得できる。

「この段落は文章のどこに入る？」
 中学校国語<豊永教諭>



- ★具体的に操作しながら考えられる。
- ★色分けにより違いが分かりやすい。